

聖書日課 『からし種』 2021.1.31-2.7

<p>1月31日 (日) 箴言 22章</p>	<p>「あなたが主に信頼する者となるように／今日、あなたに教えを与えよう」(19節)。「主に信頼する者」は「主により頼む者」の意味。「味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は」(詩編 34・9)とあるように、自分一人では心配で、主に身を寄せる人。それは「弱い者」の歩みに見えるけれど、主の恵み深さを味わい知る幸いな道。</p>
<p>2月1日 (月) 箴言 23章</p>	<p>「強欲な者のパンを食べようとするな。供される珍味をむさぼるな。彼はその欲望が示すとおりの人間だ。『食べるがよい、飲むがよい』と言っても／心はあなたを思っていない」(6-7節)。利をむさぼる人は、他人を上手に利用し、用が済むと捨てる。真の羊飼いなる神は、私たちのことを真剣に心配し、真剣に叱り、犠牲をいとわず愛して抜いてくださる方。</p>
<p>2日 (火) 箴言 24章</p>	<p>「魂にとって知恵は美味だと知れ。それを見出だすなら、確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない」(14節)、「神に従う人は七度倒れても起き上がる」(16節)。神の知恵は私たちを救い、私たちに未来をもたらす。何度倒れようと、それは「The End」ではない。神の知恵が私たちを起こし、立ち上がらせる。それは神の愛から出る命の言葉だから。</p>
<p>3日 (水) 箴言 25章</p>	<p>「穏やかに語る舌は骨を砕く」(15節)、「あなたを憎む者が飢えているならパンを与えよ。渴いているなら水を飲ませよ」(21節)。自分の正義感からつい言葉を荒げ、力づくで相手を屈服させようとしてしまうが、人を「正す」のはわたしの正義ではなく、神の慈しみと正しさである。今日、神の深い慈しみを知らされた者として、他者に向かい合うことができるように。</p>

聖書日課 『からし種』 2021.1.31-2.7

<p>4日 (木)</p> <p>箴言 26章</p>	<p>「自分を賢者と思い込んでいる者を見たか。彼よりは愚かな者の方がまだ希望が持てる」(12節)。箴言 26 章は「愚か者」を徹底的に打ち砕く言葉であふれている。箴言の語る「愚か者」とは、主なる神をあなどり、自分の正しさを疑わない者。それでも自らの愚かさに気づかされた時、その人には希望がある。神の正しさに立ち返るチャンスをいただいた時だから。</p>
<p>5日 (金)</p> <p>箴言 27章</p>	<p>「明日のことを誇るな。一日のうちに何が生まれるか知らないのだから」(1節)。私たちは「今日の命」を主からいただく。「今日の命」はいただきものである、私たちの所有物ではない。主なる神は、自分の富を誇り、明日を誇った「愚かな金持ち」(ルカ 12 章)の命をその夜のうちに取り上げられた。明日のことを誇るのではなく、主に委ねる信仰をいただきたい。</p>
<p>6日 (土)</p> <p>箴言 28章</p>	<p>「罪を隠している者は栄えない。告白して罪を捨てる者は憐れみを受ける」(13節)、「自分の心に依り頼む者は愚か者だ。知恵によって歩む人は救われる」(26節)。私たちはできるなら自分の罪を隠したいと思う。しかし今日、主の知恵は「告白して罪を捨てよ」と私たちに厳しく迫る。自分の心に依り頼むのではなく、主の慈しみに依り頼む信仰をいただいて。</p>
<p>7日 (日)</p> <p>箴言 29章</p>	<p>「人は恐怖の罨にかかる。主を信頼する者は高い所に置かれる。支配者のご機嫌をうかがう者は多い。しかし、人を裁くのは主である」(25～26節)。私たちが従うべきは、主なる神だけ。神以外により頼んでも、それは人に自分の主導権を譲り渡すため。主を畏れることは主に主導権を委ねること。そうすれば主が私たちの道を守ってください。</p>